

2024年9月11日

第147回 全国大学国語教育学会 第2次案内

第147回全国大学国語教育学会越谷大会実行委員会

1. 開催日：2024（令和6）年 10月26日（土）～10月27日（日）

※公開講座は10月6日（日）にオンラインで開催

2. 会 場：文教大学 越谷キャンパス（〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337）

- 宿泊ホテルについては、案内・斡旋をいたしません。各自でお願いいたします。東武スカイツリーライン沿線には多数のホテルがありますが、なるべく早めに予約されることをお勧めいたします。なお、文教大学の駐車場は使用できません。会場までは、東武スカイツリーライン（「北越谷駅」下車、徒歩約10分）をご利用ください。

- 文教大学 越谷キャンパス（教育学部）への交通アクセス

<https://www.bunkyo.ac.jp/access/koshigaya/>

- 文教大学 越谷キャンパス（教育学部）のキャンパス・マップ

<https://www.bunkyo.ac.jp/campuslife/campus/koshigaya/>

3. 後援 文教大学国文学会

4. 大会参加費

事前申込	当日申込（会期前再オープン）
（会 員） 6,000円	（会 員） 7,000円
（学生会員） 4,000円	（学生会員） 5,000円
（非 会 員） 7,000円	（非 会 員） 7,000円
（学生非会員） 5,000円	（学生非会員） 6,000円
（懇親会） 5,000円	（一律） 5,000円

※懇親会は会場定員になり次第、受け付けを終了します。

※ 当日、現金でのお支払いはできません。

※ 領収書については、「[発表・参加申込システム](#)」の「領収書自動発行」から発行することができます。

※ 参加申込の詳細は、[一次案内](#)をご覧ください。

※ 「公開講座」のみの参加は無料です。

5. 日程

第1日 10月26日（土）		第2日 10月27日（日）	
8:45	受付	9:00	受付
9:30	シンポジウム	9:30	課題研究発表
12:00	昼食	12:00	昼食
12:30	理事会	12:30	若手研究交流企画
13:30	総会	13:40	自由研究発表 ラウンドテーブル
14:40	自由研究発表	16:30	
17:30			
18:00	懇親会		
20:30			

● 公開講座は10月6日（日）15:00～18:00
オンライン開催です。事前の申込みが
必要です。

越谷大会情報サイト：<https://sites.google.com/view/jtsj2024koshigaya/home>

5. 大会プログラム

※自由研究発表・ラウンドテーブルの発表者・登壇者氏名・所属は、原則として本人登録時の内容をそのまま転記しています。

【第1日 10月26日土）午前の部】

◎ シンポジウム 9:30～12:00 会場：13号館13101教室

「探究」という学びについて考える

趣旨説明：甲斐雄一郎（文教大学）

基調提案：萩原敏行（文教大学）

コーディネーター：藤森裕治（文教大学）

登壇者：井上陽童（実践女子大学）

沖奈保子（ドルトン東京学園中等部・高等部）

石崎友規（常磐大学）

-
- | | | |
|-------|-------------|--------------------------|
| ◎ 昼食 | 12:00～12:30 | （理事・シンポジストには事務局よりご用意します） |
| ◎ 理事会 | 12:30～13:30 | 会場：14号館2階14201教室 |
| ◎ 総会 | 13:30～14:30 | 会場：14号館1階大教室 |

【第1日 10月26日（土）午後の部】

◎ 自由研究発表 14:40～17:30 発表20分 質疑応答10分 接続時間5分

第1会場 司会：長田友紀（筑波大学） 山元悦子（福岡教育大学）

場所：14号館3階 14301教室

- 1-1 小中学校学習指導要領国語編における「話すこと・聞くこと」の課題
—発話に困難のある子どもに関する記述を中心に—
伊井健(関西学院大学大学院・院生)
- 1-2 豊かな対話を実現する「問うこと」の探究
—「質問行動分類表」を基にしたカリキュラム開発を通して—
友永達也(神戸大学大学院人間環境学研究科（神戸大学附属小学校）)
- 1-3 合意形成を意識した議論における中学生の論証の検討と調整のあり方に関する
—考察—
岩下嘉邦(熊本大学教育学部附属中学校)
北川雅浩(熊本大学)
- 1-4 身体性を伴うコミュニケーションと言葉
—小学6年生「風切るつばさ」の話し合い分析—
酒井千春(広島大学大学院・院生 東広島市立入野小学校)
明尾香澄(エリザベト音楽大学)
- 1-5 話し合いにおける他者意識に関する研究
—小学校2年生の事例分析をもとに—
大村幸子(お茶の水女子大学附属小学校)

第2会場 司会：坂口京子（静岡大学） 佐藤多佳子（上越教育大学）

場所：14号館3階 14302教室

- 2-1 「死」をめぐる見方・考え方を育む国語科教育の研究
—貧困の子どもに焦点をあてて—
森川蓉子(関西学院大学大学院・院生)
- 2-2 国語科平和教育はどうあるべきか
—大槻和夫（2005）『平和教育への宿願』をてがかりに—
原田大介(関西学院大学)
- 2-3 性をめぐる「言葉の暴力」に抵抗する言葉遣いの学習
—イン／ポライトネスをてがかりに—
永田麻詠(四天王寺大学)

2-4 主体化する国語科授業における教師の変容

—1年間の国語学習サイクルによる実践研究を通して—

香月正登(梅光学院大学子ども学部)

白坂洋一(筑波大学附属小学校)

小泉芳男(広島市立袋町小学校)

古沢由紀(大阪市立柏里小学校)

木原陽子(長門市立仙崎小学校)

森一滋(糸田町立糸田小学校)

2-5 上原輝男による「言語生態」を中心に据えた国語教育カリキュラム論

—現在の聖徳学園小学校文学教育実践から見えるもの—

河上裕太(聖徳学園小学校)

第3会場 司会：藤井知弘（岩手大学） 渡部洋一郎（上越教育大学）

場所：14号館3階 14303教室

3-1 小学校国語科における卒業文集の書き方指導

—小論文の文章構成を生かして—

西山悦子(東京都台東区立田原小学校)

3-2 「描写」表現に着目した 実用的・説明的な文章を書く授業の検討

—小学校国語科「書くこと」における実践を通して—

曽根朋之(東京学芸大学附属竹早小学校)

3-3 児童が文章表現の「場」を意識して「書くこと」に適用する実践

—改訂前後の小学校6年生教科書教材の比較を基に—

大谷航(尚絅学院大学)

3-4 小学校国語科における自己を書くことの実践的研究

—「人物を表す語」アンケートを参考にした自己記述と学習感想を分析して—

成家雅史(相模女子大学)

3-5 意見文を書くことの学習過程における問いの特徴と文脈化の相互関連

—修辞ユニットに基づく児童の意見文の分析を通して—

中尾聡志(熊本市立健軍東小学校)

第4会場 司会：守田庸一（三重大学） 杉本直美（日本体育大学）

場所：14号館3階 14304教室

4-1 「オンライン空間における社会問題」と国語科はいかに向き合うのか

田中秀憲(東京学芸大学大学院・院生)

- 4－2 思考力の教科横断的な育成を目的とした中学校「書くこと」の授業設計と実践
—3年間のふり返りの変容を中心として—

小野塚若菜(ベネッセ教育総合研究所)
藤井泉浩(明星中学校・高等学校)
鈴木佑亮(ベネッセコーポレーション)

- 4－3 国語科の「書くこと」領域におけるログを用いた自己診断システムの開発

杉本直美(日本体育大学)
富山哲也(十文字学園女子大学)

- 4－4 生成AIを活用した物語文の読解と質問能力向上の研究

—「走れメロス」を例にした“作品の登場人物に質問してみたい、されてみたいGPTs”の活用効果と提案—

池田修(京都橘大学)

- 4－5 中等国語科オンライン模擬授業の分析—授業者の発話記録から—

井上次夫(高知県立大学)

第5会場 司会：富安慎吾（島根大学） 中村和弘（東京学芸大学）

場所：I4号館4階 I4401教室

- 5－1 ことばと経験をつなぐ語彙学習

松本真実(上越教育大学教職大学院・院生)

- 5－2 漢字に関する学習内容についての検討—「読み」の体系性の検討を中心に—

富安慎吾(島根大学)

- 5－3 高等学校国語科における「言葉の働き」に関する考察

—現行教科書（令和4（2022）年検定以降）採録の「言語教材」を中心に—

高山実佐(國學院大學)

- 5－4 学童期児童における語種・表記選択の実態とその背景

—音声テストの分析を通じて—

宮本淳子(東京学芸大学)
白勢彩子(東京学芸大学)
中村和弘(東京学芸大学)
土屋晴裕(東京学芸大学附属大泉小学校)
堀口史哲(立教女学院小学校)

- 5－5 「身体知としての言葉」を育む語彙学習の開発

—語源および音象徴の視点を導入して—

秦恭子(日本学術振興会・特別研究員RPD)

第6会場 司会：住田勝（大阪教育大学） 石田喜美（横浜国立大学）

場所：14号館4階 14402教室

- 6－1 東アジア文化圏に共通する民話を素材とした学習開発
―「ふるやのもり」を手掛かりに―

黒川麻実(愛知県立大学)

- 6－2 多様な言語的背景を持つ生徒たちの学びの基盤をつくる
公立中学校国語科の授業―英語科との「連携」からつくる基盤―

下村京子(長野県上田市立丸子北中学校)

- 6－3 北欧の読書教育が我が国の国語科教育に与える示唆

岩船尚貴(上越教育大学附属中学校)

- 6－4 国語科教師教育における課題としての「母語」

―教育学部生・留学生共同ワークショップ受講生のアンケート調査結果から―

石田喜美(横浜国立大学)

- 6－5 資料单元「JAPAN」(1940)にみる日本の詩歌・物語に関する参考文献の解題
―サンタバーバラ市教育局(カリフォルニア州)の取組に着目して―

小久保美子(元新潟大学)

第7会場 司会：小川雅子（山形大学） 内藤一志（北海道教育大学）

場所：14号館4階 14403教室

- 7－1 小学校古典教育の状況分析 ―教科書教材・実践報告の調査を手がかりに―

正木友則(岡山理科大学)

井浪真吾(岡山理科大学)

- 7－2 小学校国語科における伝統的な言語文化の学習指導に関する一考察

竹内孝彦(千葉大学大学院・院生)

- 7－3 古典の学習意識に関する調査(2)

―古典嫌いの実態に関する追跡調査アンケートの結果分析を中心に―

森口皓介(京都教育大学大学院・院生)

- 7－4 「つなぐこと」を重視した小学校の古典授業

―昔話を民俗学的視点で考える―

小林和馬(川崎市立小倉小学校)

- 7－5 リズムに着目した「短歌・俳句」教材の学習デザイン

―「等時音律説」より「拍の原稿用紙」を用いて―

廣田鉄平(玉川大学教職大学院・院生)

第8会場 司会：吉川芳則（兵庫教育大学） 間瀬茂夫（広島大学）

場所：I4号館5階 I4501教室

- 8－1 論理的文章の性質に気づく教材の提案（中・高等学校）
長谷川祥子（青山学院大学）
- 8－2 語彙・統語を視点とした説明的文章教材の段階性の分析
―読みに困難のある学習者のアセスメントに向けて―
古賀洋一（島根県立大学）
中井悠加（島根県立大学）
富安慎吾（島根大学）
登城千加（島根県教育センター）
村井隆人（大阪教育大学）
明尾香澄（エリザベト音楽大学）
間瀬茂夫（広島大学）
- 8－3 学習評価の起因となる鑑識眼と読解方略の改善に関する研究
―説明的文章の要約に着目して―
藤原隆博（江戸川学園取手小学校）
- 8－4 中学生の批判的統合の読み類型の検討
―中学校3年生を対象とした初読の分析を中心に―
村井隆人（大阪教育大学）
- 8－5 国語科教師の評論・論説教材観および指導観に関する研究(2)
―教材分析の記述とインタビュー調査を中心に―
慎野拓海（京都教育大学大学院・院生）

第9会場 司会：上谷順三郎（鹿児島大学） 丹藤博文（愛知教育大学）

場所：I4号館5階 I4502教室

- 9－1 過剰適応傾向のある児童に向けたアサーションの理論的検討
南咲貴子（関西学院大学大学院・院生）
- 9－2 語り概念学習過程における読みの変容についての一考察
―小学校4年「走れ」「一つの花」「ごんぎつね」の3実践を比較して―
久田義純（岡崎市立男川小学校）
- 9－3 物語を演じることがひらく文学教育の可能性
―アーノルド・ローベル「すいえい」の学習分析から―
小川高広（上越教育大学附属小学校）

9-4 学習者による解釈の選択肢の検討

—第3学年「わたしと小鳥とすずと」での学習を事例として—

西田太郎(兵庫教育大学)

中島愛梨(世田谷区立等々力小学校)

9-5 小学校中学年における「物語行為」としての「語り」を読む学習に関する実践的検討

武田純弥(南魚沼市立中之島小学校)

第10会場 司会：児玉忠（宮城教育大学） 望月善次（元岩手大学）

場所：14号館5階 14503教室

10-1 「縮約」を用いた読解力と表現力向上の授業プランに関する研究

牛頭哲宏(神戸常盤大学)

山下敦子(神戸常盤大学)

10-2 カードゲームが授業を変える ー対話的な学びの充実の前にー

井上善弘(国士舘大学)

10-3 国語科教育学の原理的考察（八）

ー母語「日本語」を守るための簡潔10箇条の試みー

望月善次(元岩手大学)

10-4 「MI」理論を活用した児童期後期における文学的教材の学習指導

ー「ごんぎつね」の実践からー

飯塚ひろみ(埼玉県八潮市立大曾根小学校 早稲田大学大学院生)

10-5 学習の「場」における関係のありようと構築の過程

ー劇化学習における脚本づくりの過程に注目してー

下田実(比治山大学)

第11会場 司会：佐野比呂己（北海道教育大学） 府川源一郎（横浜国立大学）

場所：14号館5階 14504教室

11-1 「ちいちゃんのかげおくり」（あまんきみこ）と「かげふみ」（朽木祥）を重ねて読む ー「かげ」と〈いのち〉をめぐる考察ー

村上呂里(琉球大学)

11-2 大正・昭和初期の「国語副読本」が国語教育に果たした役割

ー冊子形態で刊行された副読本類の調査からー

府川源一郎(横浜国立大学)

11-3 「銀の燭台」教材史研究 ―採録形式の変更に着目して―

片岡悠理(早稲田大学大学院・院生)

11-4 教材「東遊雑記」(古川古松軒)をめぐって

―柳田国男監修高等学校国語教科書の視座から―

佐野比呂己(北海道教育大学)

11-5 森鷗外「安井夫人」の教材史研究

秋吉和紀(関西大学第一高等学校・第一中学校)

◎懇親会 18:00~20:30 会場:文教大学生協食堂2階ホール

【第2日 10月27日(日) 午前の部】

◎課題研究発表 9:30~12:00 会場:14号館1階大教室

大テーマ:国語科教育に求められる新たな「知」

小テーマ:②芸術系教科と国語科の対話

美術科教育:石崎 和宏(筑波大学)

音楽科教育:小川容子(岡山大学大学院)

国語科教育:松本仁志(広島大学大学院)

国語科教育:中井悠加(島根県立大学)

コーディネーター:武田裕司(福岡教育大学)

◎昼食 12:00~12:30 (課題研究発表関係者には事務局よりご用意します)

◎若手研究交流企画 12:30~13:40 会場:14号館2階14201教室

【第2日 10月27日(日) 午後の部】

◎自由研究発表 13:40~16:30 発表20分 質疑応答10分 接続時間5分

第12会場 司会:田中宏幸(安田女子大学) 森田香緒里(文教大学)

場所:14号館3階 14301教室

12-1 中学校国語科における論理的文章を「書くこと」の指導・評価の研究

―具体的事例の記述指導・評価指導に着目して―

西山明人(東京農業大学第三高等学校附属中学校 放送大学大学院・院生)

12-2 中学生意見文における思考に関わる文末の表現形式の指導

―「ト思ウ」削除の視点から―

吉田吏玖(東京学芸大学大学院・院生)

- 12-3 論理的文章に対する教師の作文評価パフォーマンスの分析
—論証構造を中心に—

森田香緒里(文教大学)

- 12-4 中学校における短歌の創作・鑑賞学習に関する実践的研究
—生徒の使用語彙の分析を通して—

加儀修哉(東京学芸大学附属世田谷中学校)

- 12-5 初等・中等教育における「共同推敲」指導の目的に関する考察
—「共同批正」との意味比較を含めて—

片田智香子(愛知県立鳴海高等学校 名古屋市立大学大学院・院生)

第13会場 司会：植山俊宏（京都教育大学） 高木まさき（教科書研究センター）

場所：14号館3階 14302教室

- 13-1 実生活と関係する古典のことばを学習者が選ぶ取る言語文化学習
—『源氏物語』の「抜書」を用いて—

諏訪園純(愛知教育大学大学院・院生 東海中学校・高等学校)

- 13-2 主題を統合した古文の授業
—『蜻蛉日記』「町の小路の女」の実践—

寺西創(和歌山県立向陽高等学校)

- 13-3 源氏物語絵巻の詞書と絵画を活かした古典指導の研究
—「あはれ」に着目して—

山田丈美(中部学院大学)

- 13-4 高等学校国語科における古典文学教育の新たな視点（1）
—国際バカロレア教育DP日本語Aの方略を用いた比較分析—

篠崎祐介(東京学芸大学)

川上知里(東京学芸大学)

中村純子(東京学芸大学大学院)

- 13-5 高等学校国語科における古典文学教育の新たな視点（2）
—国際バカロレア教育DP日本語Aの方略を用いた比較分析—

中村純子(東京学芸大学大学院)

湯浅佳子(東京学芸大学)

第14会場 司会：幸田国広（早稲田大学） 佐野比呂己（北海道教育大学）

場所：14号館3階 14303教室

- 14－1 専門学科との教科横断型古典教育教材の開発とその実践
―農業科との協働例―

清田朗裕(愛媛大学)

- 14－2 高校古典教育において「書く活動」を取り入れることの意義について
―社会や自分との関わりを意識した古典指導の実現に向けて―

岩田莉奈(千葉大学大学院・院生)

- 14－3 ことばと向き合う高校国語学習(2)
―詩歌のアンソロジー編纂を通じた自己発見と共鳴的反応の研究―

田島美咲(京都府立清明高等学校／京都教育大学大学院)

- 14－4 古典授業における「愉悦」を追求した戦略的アプローチとその効果
―学習者の感情と認知の分析に基づく実践研究を通して―

平塚斐女(横浜国立大学教職大学院・院生)

- 14－5 高校古典授業の再構築(2) ―「問い」を軸にした古典授業の検討―

松本圭祐(京都府立福知山高等学校)

第15会場 司会：山元隆春（広島大学） 勝田光（筑波大学）

場所：14号館3階 14304教室

- 15－1 語り手をカウンセリングする授業実践の可能性
―井伏鱒二「山椒魚」の授業実践をもとに―

森川浩輔(北海高等学校)

- 15－2 中学生の詩における書き出しと結びの分析

加藤恵梨(愛知教育大学)

- 15－3 「解釈の衝動」と問い
―デイヴィッド・ウィーズナー『漂流物』を用いて―

大島彩弥香(上越教育大学教職大学院・院生)

- 15－4 「のらねこ」(三木卓)における登場人物の登場前の「不在」を読む学習の様相
神永裕昭(岐阜聖徳学園大学)

- 15－5 学習者の内的体験を核とした文学教材研究 その2
―「握手」の授業実践を基にして―

高橋茉由(秋田大学)

第16会場 司会：住田勝（大阪教育大学） 富安慎吾（島根大学）

場所：14号館5階 14501教室

- 16-1 文学テキストに関わる資質・能力の構造—「存在」と「時間」と「語り」—
住田勝(大阪教育大学)
- 16-2 物語文読解における児童の因果推論を支援する視覚的・操作的アプローチ
前野翔大(兵庫教育大学大学院・院生)
- 16-3 子どもの文学体験における「共同体験」を促進する方法の検討
—主に「同化」に焦点をあてて—
久米朔矢(静岡大学教職大学院・院生)
- 16-4 学習者が語りを読み合う意義
—『ちいちゃんのかげおくり』を絵本で再読する—
岩崎直哉(富山国際大学)
- 16-5 学生の主体的取り組み及び学生間対話を促す文学授業実践
—リテラチャー・サークル活用事例より—
木内英実(駒沢女子大学)

第17会場 司会：足立幸子（新潟大学） 奥泉香（東京学芸大学）

場所：14号館5階 14502教室

- 17-1 初等・中等教育における「読むこと」の学習に「聞くこと」の学習を組み入れた授業
—「予測しながら聞くこと」によって説明文や評論の読みを深める—
神田恵美子(宇都宮大学)
- 17-2 語りの「断層」を契機とした読みの交流
井上功太郎(美作大学)
- 17-3 物語行為を促進する「視点の転換」に着目した学習指導
—「側転と三夏」のリライトの試み—
澤田裕典(大阪市立東住吉中学校)
- 17-4 〈問い〉づくりにおける授業実践研究
—学習者における学びのつながりに着目して—
渡辺優菊(府中市立白糸台小学校)
- 17-5 テキストを自己解釈する読者を育てる鑑賞・批評指導理論
—文種を意識した中学1・2年生の記述の検討を通して—
柳谷直明(北海道教育大学札幌校 北海道教育大学附属札幌中学校)

第18会場 司会：羽田潤（兵庫教育大学） 佐藤佐敏（福島大学）

場所：14号館5階 14503教室

- 18-1 幼児期の学びとの連続性を意識した国語授業の創造
—入門期の物語文実践における協同性に着目して—
安藤浩太(東京都昭島市立光華小学校)
- 18-2 自分で工夫する子どもファシリテーターを育てる
—国語の単元学習での実践を通して—
山寄翔(東京都文京区立小日向台町小学校)
- 18-3 評論文の理解を深める「詳述」の有効性とその類型
辻尚実(高知大学)
- 18-4 子どもの「問い」を起点にして物語文を読むことの意義
—問いの価値を子どもたち自身が考える授業を通して—
廣瀬修也(東京学芸大学附属小金井小学校)
- 18-5 五感を活用する読みの営み
手塚健斗(福島大学大学院・院生)
佐藤佐敏(福島大学)

第19会場 司会：寺井正憲（千葉大学） 府川源一郎（横浜国立大学）

場所：14号館5階 14504教室

- 19-1 世羅博昭古典教育実践の始発
井浪真吾(岡山理科大学)
- 19-2 「調べる綴方」衰退後の共同制作・協働の特質
—村山俊太郎の実践の推移を中心に—
赤荻千恵子(早稲田大学非常勤講師)
- 19-3 国語科と道德教育の関係に関する史的考察
鈴木孝典(埼玉県立宮代高等学校)
- 19-4 戦後小学校文法指導系統化の展開
—昭和20年代後半から30年代前半にかけて—
松崎史周(国士舘大学)
- 19-5 戦前期中等学校国語教科書に関する通史的研究
—吉田彌平編『中学国文教科書』における古典教材の採録状況を中心に—
小笠原拓(鳥取大学)

◎ ラウンドテーブル 13:40～16:30 (終了時刻は最も長い場合です)

R－1 会場 場所：14号館4階14401教室

タイトル：生成AIと国語科教育の未来 ―新たな授業と学びを切り拓く―

会場主催者：池田修(京都橘大学)

登壇者：野中潤(都留文科大学)

宮城信(富山大学)

渡邊光輝(お茶の水大学附属中学校)

R－2 会場 場所：14号館4階14402教室

タイトル：国語科教育実践における〈モデル〉の捉え直し

―「トウルミン・モデル」と「アブダクション」を中心に―

会場主催者：渡辺哲男(立教大学)

登壇者：久島玲(日本学術振興会特別研究員DC2 東京大学大学院・院生)

宮坂朋彦(日本学術振興会特別研究員DC2 東京学芸大学大学院・院生)

R－3 会場 場所：14号館4階14403教室

タイトル：国語科CRメソッドに基づく教材開発とその実践

―研究と実践を架橋するカリキュラムの構築―

会場主催者：澤口哲弥(神奈川大学)

登壇者：赤沼寛子(三重県立白子高等学校)

奥田義経(三重県立松阪商業高等学校)

川原田智子(三重県立名張高等学校)

田中隆幸(三重県立津西高等学校)

R－4 会場 場所：14号館4階14404教室

タイトル：「書くこと(適否)」における言語感覚の本質

―データサイエンスや生成AI等テクノロジーを活用して―

会場主催者：矢部玲子(北海道文教大学)

登壇者：浅田孝紀(早稲田大学)

松原裕之(福岡工業大学)

坂本麻裕子(早稲田大学)

桐山聰(鳥取大学)

R－5 会場 場所：14号館4階14405教室

タイトル：「自省録(宮澤トシ)」をめぐる(3)

―若い世代に読んでもらうためにはどうしたことが考えられるか―

会場主催者：望月善次(元岩手大学)

登壇者：佐藤宗大(日本女子大学)

大野翔平(千葉県立木更津高等学校)

岡山真子(東京都立世田谷総合高等学校)

※プログラム作成は入念に行っておりますが、万一氏名・肩書き・タイトル等に誤植等がありました場合は、大会実行事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

◎ 公開講座について

10月6日（土）15:00 ～ 18:00（Zoomミーティング）

テーマ：研究に基づく授業づくり：戦争文学教材を素材として

開会挨拶 寺井正憲（研究部門委員長 千葉大学）

1 部 基調講演 金原瑞人（法政大学 翻訳家）

参加者からの質疑応答（司会 勝田光（筑波大学））

2 部 研究に基づく授業開発

コーディネーター：勘米良祐太（武蔵野大学）

話題提供者 1 勝田光（筑波大学）

話題提供者 2 山本賢一（川口市立前川小学校）

話題提供者 3 草原和博（広島大学）

指定討論者 池田匡史（岡山大学）

※ 今回の公開講座は、学会の大会当日とは異なる日程で開催します。

※ 公開講座は、Zoomミーティングで実施します。事前の申し込みが必要となりますが、詳細については広報サイトでお知らせします。

※ 公開講座にのみ参加する場合には、学会全体への参加申し込みは必要ありません。（無料で参加することができます。）

※ 公開講座に関する情報は、越谷大会広報サイトに随時更新していきます。

<https://sites.google.com/view/jtsj2024koshigaya/home>

6. 参加にあたっての留意点（重要）

〔参加者の方〕

- 当日資料は、後日メールでお知らせする「大会資料サイト」にてご案内します。参加者用のIDとパスワードをお知らせしますので、各自入力してサイトに接続の上、ダウンロードして参照してください。大会参加時には、PCもしくはタブレット端末を持参されることをおすすめします。
- 学内ネットワークをご利用いただくことはできませんので、PC等で資料をご覧になる方は、事前に資料をダウンロードしていただくか、モバイルWi-Fiなどをご持参ください。
- 各机にコンセントが設置されている教室はありませんので、PC等は事前に充電をしてからご参加ください。

〔発表者の方〕

- パソコンは発表者持ち込みにてお願いいたします。接続ケーブルは用意いたしますが、RGBかHDMIのいずれかのコネクタで接続することになります。アップル社のMACやマイクロソフト社のSurfaceなど、コネクタの形状が異なるパソコンで接続する場合は、**必ず接続アダプターをご持参ください**（例年、接続アダプターを持参していないことによるトラブルが起きています）。
- 紙の当日資料は、**100部**を作成し、発表当日、発表会場（教室）までお持ちください。
- 当日資料のアップは任意とします。近年、PCやタブレット端末での資料閲覧を希望される方も増えておりますので、できれば事前に資料をアップしていただくと幸いです。
- 当日資料は、できれば発表前日までにアップしてください（事前にダウンロードや印刷をされるかたもいらっしゃいます）。
- 当日資料は、下記のURLからPDFでご投稿ください。その際、ファイルの頭に「**I-I ○○発表資料**」など、プログラムにある発表順を記載してください。

資料提出先：以下のアドレスに提出してください。

<https://sites.google.com/view/jtsj2024koshigaya/request>

- 投稿した資料については、直接修正することができません。ファイルの末尾に（修正版）などをつけて再投稿してください。
- 資料を掲載するサイトにはパスワードを設定しますが、さほど強力なパスワードではありません。学習者等の個人情報や著作権に関する取り扱いにはご注意ください。
- 大会事務局では印刷などの対応は一切致しません。また2日目の資料を1日目にお預かりすることできません。

〔要旨集について〕

事前に紙媒体の『発表要旨集』をご注文いただいた方については、大会当日までにご登録いただいた住所に直接送付される予定になっております。また、『発表要旨集』につきましては、上記に加えて大会申込者全員にPDF版をダウンロードしていただけるようにする予定です。ダウンロードの方法につきましては改めてメールにてご連絡いたします。

7. お問い合わせ先

● 参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail : jtsj-desk@conf.bunken.co.jp

FAX : 03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

● 年会費に関すること

全国大学国語教育学会事務局

E-mail : jtsj-post@bunken.co.jp

TEL : 03-6824-9377 FAX : 03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

● 第147回全国大学国語教育学会越谷大会（対面）に関すること

越谷大会事務局

E-mail : y-fuji@bunkyo.ac.jp

TEL&FAX : 048-974-8811

〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337 文教大学教育学部 藤森裕治宛

※お問い合わせは、Eメールでお願いいたします。

● 越谷大会実行委員会

大会実行委員長 藤森 裕治・文教大学 教育学部 発達教育課程

事務局長 萩原 敏行・文教大学 教育学部 学校教育課程

甲斐 雄一郎・文教大学 教育学部 学校教育課程

森田 香緒里・文教大学 文学部 日本語日本文学科

【参考】重要な日程一覧

- 要旨集原稿投稿締切：9月17日(火)正午
- 事前参加申込締切（郵便振替）：9月24日(火)
- 参加費入金締切（郵便振替）：9月25日(水)
- 事前参加申込締切（クレジット決済）：9月30日(月)
- 大会資料サイトオープン・会期前参加登録受け付けの再開（参加費が1,000円アップします）：10月17日(木)より
- 大会開催：10月26日(土)～10月27日(日)

越谷大会での託児所開設のお知らせ

10月26日（土）27日（日）の両日に開催される全国大学国語教育学会越谷大会では、学会員を対象に、専門業者による「臨時の託児所」を下記の通り開設することといたしました。ご希望の方は、締め切りまでにお申し込みください。

月 日：10月26日（土）・27日（日）の両日

時 間：午前（08:45ごろ開始予定）・午後（終了は17:45を予定）

場 所：文教大学教育学部13号館内 特設託児所

利用料：お子さまお一人につき、1時間500円

利用料は、利用時間が確定したのち、後日お振り込みいただきます。

利用当日の現金のやりとりはいたしません。

利用を希望される会員は、**10月18日（金）17:00まで**に、下記の専門業者（「ママMATE」）のサイト内から、必要事項を入力のうえお申し込みください。

<https://mama-mate.jp/saitama-event/>

※ご不明な点がございましたら、下記の大会担当常任理事のどちらかまでお問い合わせください。

児玉 忠(宮城教育大学):tkodama@staff.miyakyo-u.ac.jp

坂口京子(静岡大学):sakaguchi.kyoko@shizuoka.ac.jp